

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	国際経済学（International Economics） 392071-14120					担当教員	広田 秀樹 （ヒロタ ヒデキ）		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要									
授業では、世界経済のエリア別の特徴と国際経済の基本理論を学習する過程で国際経済を分析できる知力を養う。具体的には、第1に世界経済の現状を投資環境という視点を中心にエリア別に学習し、第2に各国の外資導入政策、誘致インセンティブの比較について学び、第3に国際経済学の理論を学習する。授業内容のレベルは中級レベルである。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
専門的知識・技能を活用する能力を育成する授業。									
③ 授業の進め方・指示事項									
専門知識の通説を理解しながらも、独自で深く考える思考力を育成するため、頻繁に質問し、独自の視点からの活発な意見を求め、討論を促すような授業を行う。活発な発言をすること。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
マクロ経済学・ミクロ経済学									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) 国際経済の大局的な現状が理解できる。									
(ii) 国際経済学の基本理論が理解できる。									
(iii) 国際経済の現状について、独自の思考から多様な提言ができる。									
⑥ テキスト（教科書）									
学習資料を配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
伊藤元重（2005）『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・ 実技	授業への 参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	45%			30%		25%		100%
(i) 国際経済の大局的な現状の理解	20%			10%		10%		40%

(ii) 国際経済学の基本理論の理解	20%			10%		10%		40%
(iii) 国際経済への提言	5%			10%		5%		20%
フィードバックの方法	レポートについてはコメントを行い討論のベースとして紹介する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
国際経済の表面、現状、現象をみて理解しつつも、その背後にある本質、底流を見抜き、独自の考えを提示できるような強力な思考力を、身に付けてもらうような授業を今後も志向する。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	イントロダクション・グローバル資本主義経済の発展過程		グローバル資本主義の発展プロセスに関するレポート作成	90分
2	世界のエリア分析の手法	配布学習ノート・課題資料	エリア分析の手法、Past-Present-Future-Thinkの応用問題	90分
3	エリア・スタディⅠ（中国）	配布学習ノート・課題資料	中国経済の未来予測のレポート	120分
4	エリア・スタディⅡ（南アジア）	配布学習ノート・課題資料	南アジアの未来予測のレポート	120分
5	エリア・スタディⅢ（中東）	配布学習ノート・課題資料	中東経済の未来予測のレポート	120分
6	エリア・スタディⅣ（欧州）	配布学習ノート・課題資料	欧州経済の未来予測のレポート	120分
7	エリア・スタディⅤ（米国）	配布学習ノート・課題資料	米国経済の未来予測のレポート	120分
8	開放経済と外資導入	配布学習ノート・課題資料	外資導入の効果に関するレポート	90分
9	外資導入と誘致インセンティブ	配布学習ノート・課題資料	独自の誘致インセンティブを考え提言するレポートⅠ	90分
10	誘致インセンティブの国際比較	配布学習ノート・課題資料	独自の誘致インセンティブを考え提言するレポートⅠ	90分
11	国際経済学の理論Ⅰ	配布学習ノート・課題資料	国際経済学理論の形成背景を調べるレポートⅠ	90分
12	国際経済学の理論Ⅱ	配布学習ノート・課題資料	国際経済学理論の形成背景を調べるレポートⅡ	90分

13	国際経済学の理論Ⅲ	配布学習ノート・課題資料	通説の理論と現状のギャップを考えるレポートⅠ	90分
14	国際経済学の理論Ⅳ		通説の理論と現状のギャップを考えるレポートⅡ	90分
15	まとめ		人間・人類に幸福をもたらす国際経済システムを提言するレポート	180分

⑪ アクティブラーニングについて				
知識定着・確認型 AL を採用する。講義内容をベースにして、独自に調査、考察しレポートを作成するなかで本質を見抜き、独自に提案できる思考力を伸ばす。				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の概要				
実務経験と授業科目との関連性				